

鈴鹿の景況 2024 年下期

調査結果まとまる

6 期ぶり現状 D I 値の悪化後、横ばい水準。建設業に改善の兆し。

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総 括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年 1 月と 7 月に景気動向調査を行っている。このたび 2024 年下期（7 月～12 月期）の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査（2024 年 1 月～6 月期）と比較すると、D I 値は△18.8 となり、前期調査時に比べ 3.6 ポイント改善する結果となった。業種別に見ると、前期 D I 値と比較して製造業、小売業、サービス業、その他の業種で改善が見られた。特に小売業では、マイナス幅の縮小がみられ改善が見られた。一方、飲食業の D I 値が低く△37.5（前期△20.0）という結果となった。依然として、原材料の高騰の影響が続いていると考えられる。

業種全体としては、現状 D I 値が△18.8 となり前期△22.4 と比較して 3.6 ポイント改善を示した。物価・原材料価格の高騰は続いているが前期調査より新型コロナウイルス感染症以前の水準を持ち直しつつ、特に小売業に改善が見られた。

また、見通し D I 値も△30.8（前期△27.8）とやや悪化を示しており、経済回復は鈍化の見通し。エネルギー価格高騰の影響を受けている事業者が多く、利益が圧迫され、賃上げまで余力がないという声もあった。

(対象 1,100 社 回答企業 313 社、 回答率 28.4%)

D I 値 (ディフュージョン・インデックス)

D I とは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

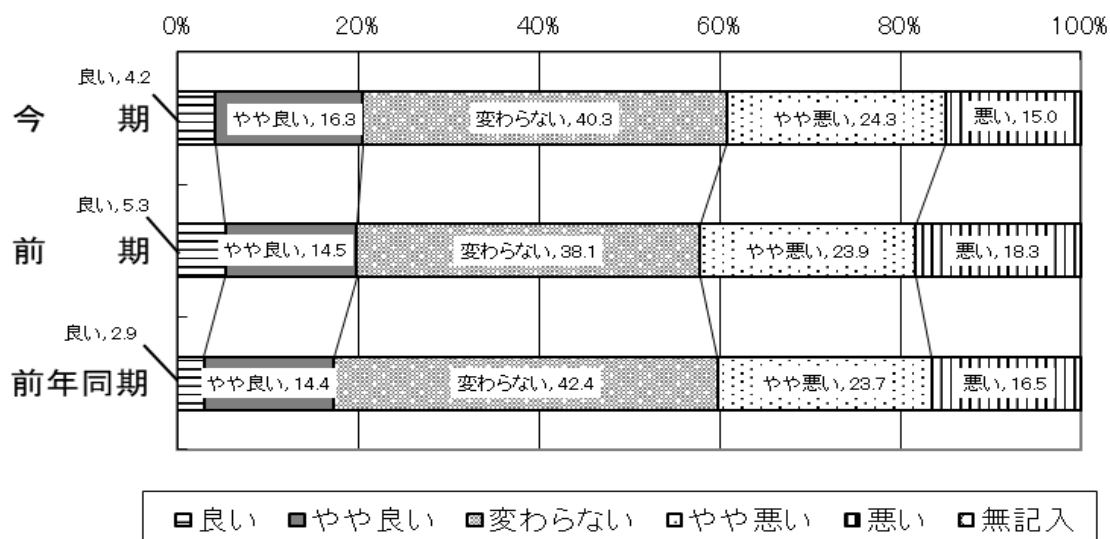
●現状の景気について (図－1・3 参照)

「良い」「やや良い」は 20.5%（前期 19.8%：前年同期 17.3%）、「やや悪い」「悪い」は 39.3%（前期 42.2%：前年同期 40.2%）となった。

景気動向を示す DI 値は、△18.8（前期△22.4：前年同期△22.9）と前期より 3.6 ポイント、前年同期より 4.1 ポイントいずれも改善している。

業種別では、製造業 DI 値△27.4（前期△37.7：前年同期△28.3）、建設業 DI 値△13.0（前期△9.5：前年同期△19.0）、卸売業 DI 値 7.2（前期 7.7：前年同期データなし）、小売業 DI 値△24.3（前期△41.9：前年同期△47.2）、飲食業 DI 値△37.5（前期△20.0：前年同期△20.8）、サービス業 DI 値△12.9（前期△15.3：前年同期△14.8）となった。

図－１ 現状について



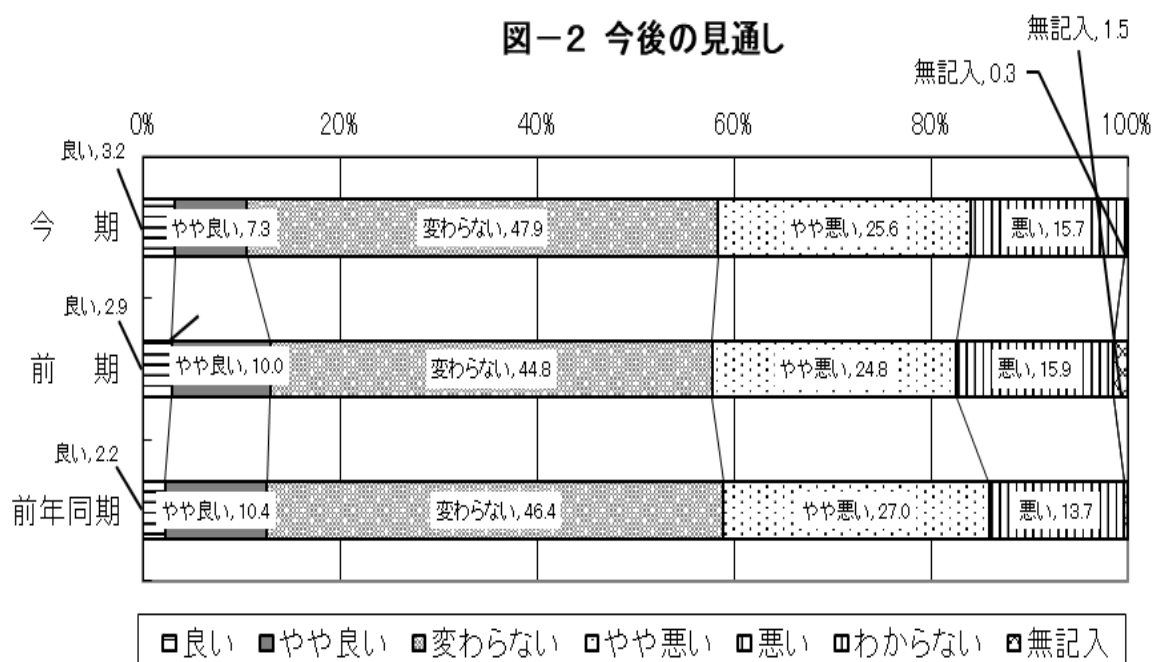
●今後の景気見通しについて（図－２・３ 参照）

「良い」「やや良い」は 10.5%（前期 12.9%：前年同期 12.6%）、「やや悪い」「悪い」は 41.3%（前期 40.7%：前年同期 40.7%）となった。

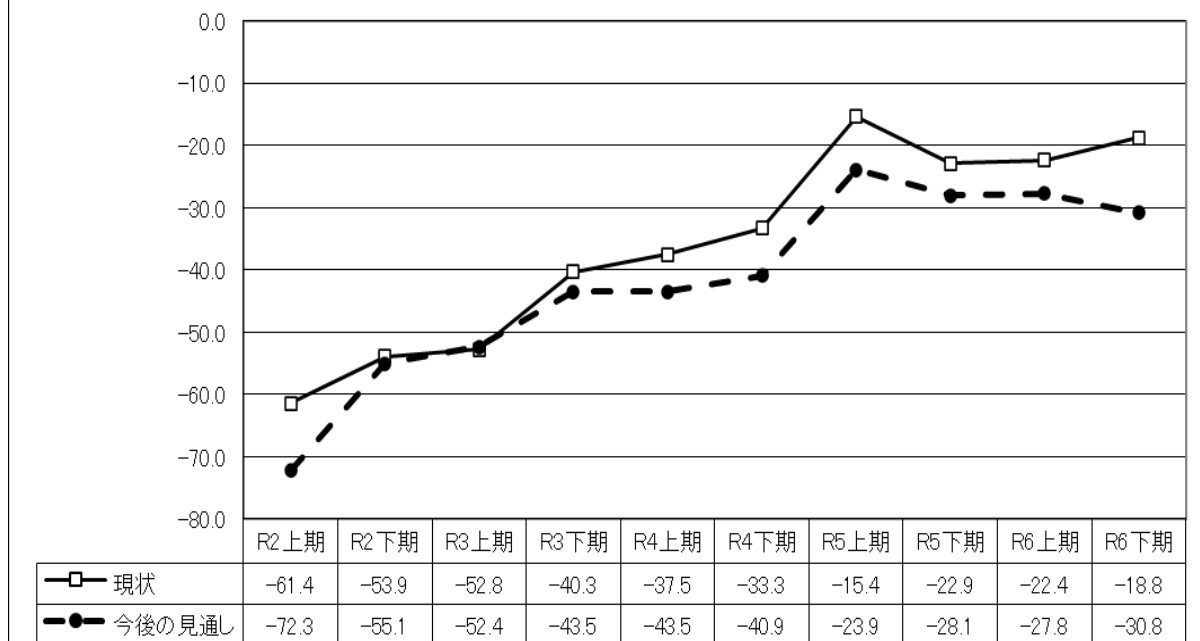
DI 値は、△30.8（前期△27.8：前年同期△28.1）と前期から 3.0 ポイント、前年同期より 2.7 ポイントいずれも悪化している。

業種別では、製造業 DI 値△35.6（前期△42.6：前年同期△31.7）、建設業 DI 値△26.2（前期△18.3：前年同期△29.7）、卸売業 DI 値△7.1（前期△15.4：前年同期△22.2）、小売業 DI 値△56.7（前期△39.6：前年同期△52.7）、飲食業 DI 値△37.5（前期△40.0：前年同期△12.5）、サービス業 DI 値△27.8（前期△13.4：前年同期△12.7）となった。

図－２ 今後の見通し



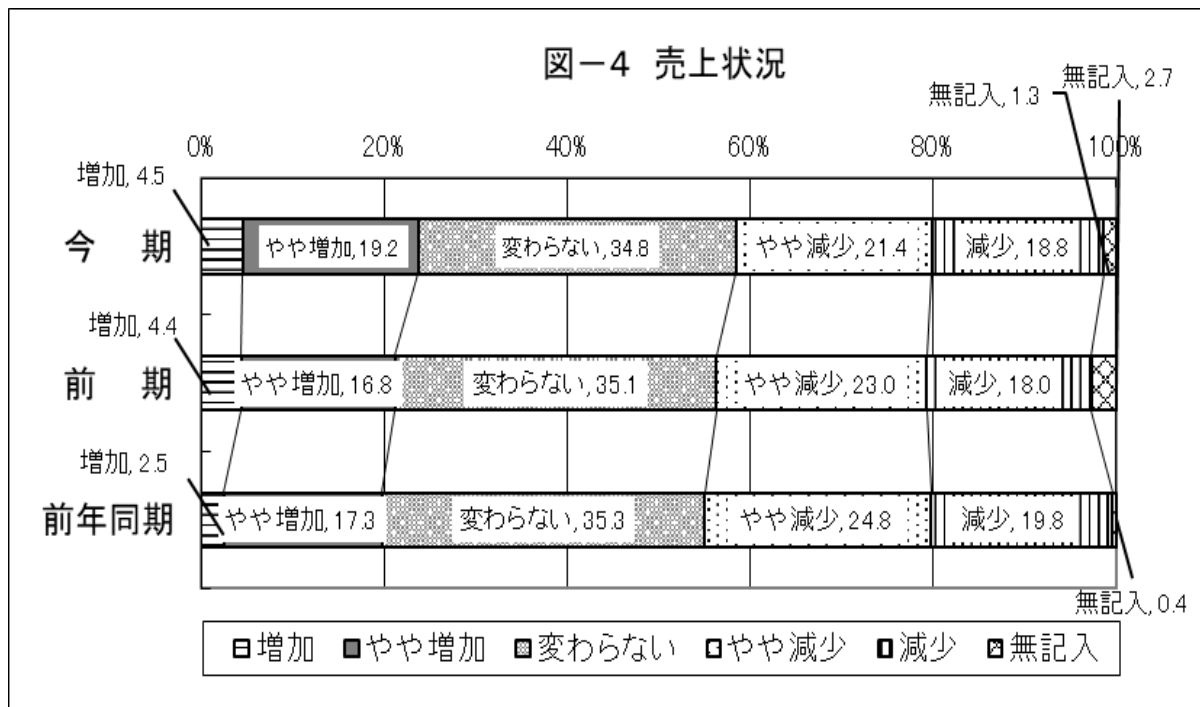
図－3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について（図－4 参照）

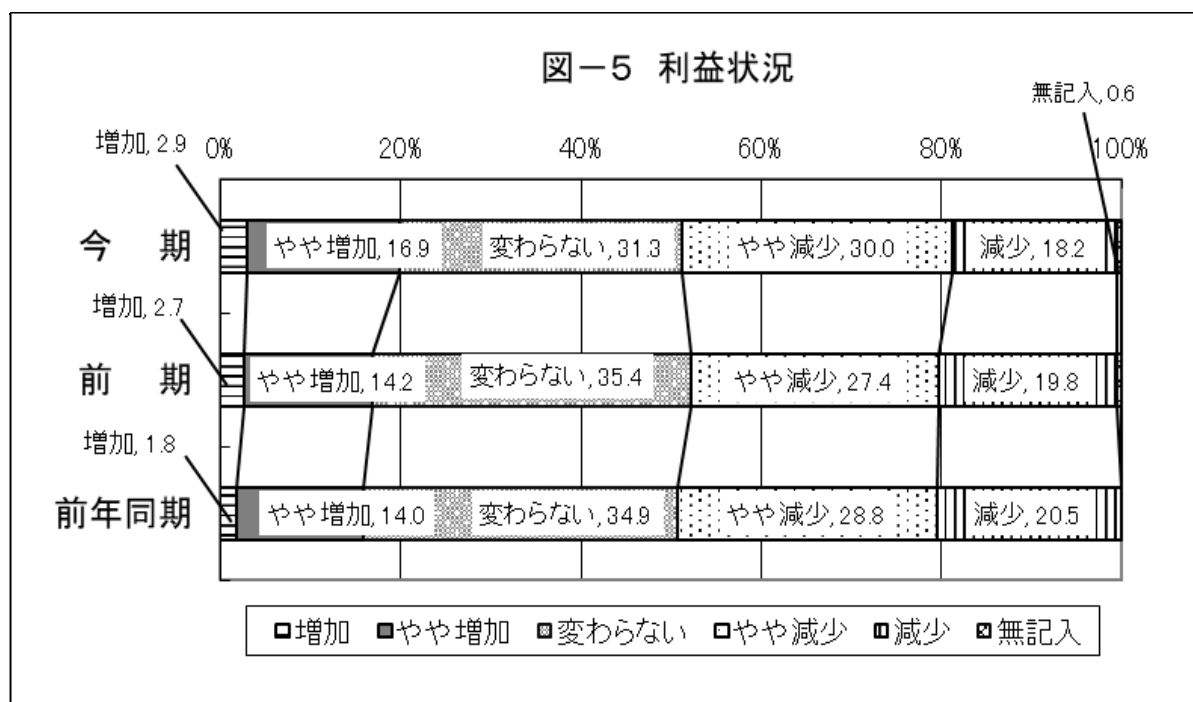
「増加」「やや増加」は 23.7%（前期 21.2%：前年同期 19.8%）、「やや減少」「減少」は 40.2%（前期 41.0%：前年同期 44.6%）となった。DI 値は△16.5（前期△19.8：前年同期△24.8）と前期より 3.3 ポイント、前年同期より 8.3 ポイントいずれも改善している。

図－4 売上状況



●利益状況について（図－５ 参照）

「増加」「やや増加」は 19.1%（前期 16.9%：前年同期 15.8%）、「やや減少」「減少」は 48.2%（前期 47.2%：前年同期 49.3%）となった。DI 値は△28.4（前期△30.3：前年同期△33.5）と前期より 1.9 ポイント、前年同期より 5.1 ポイントいずれも改善している。



経営上の問題点（上位3位）

(%)

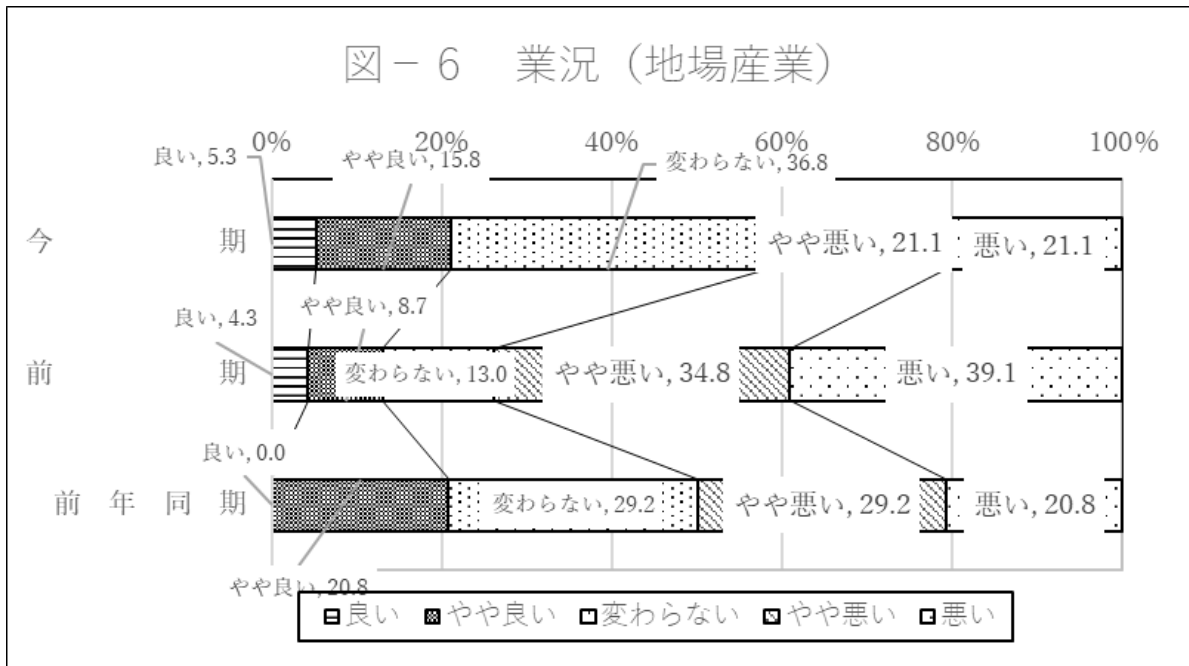
経営上の問題点(上位3位)					
				(%)	
		第 1 位	第 2 位	第 3 位	
業 種 別	製 造 業	売上・受注の停滞減少	原材料高及び不足	人手不足 人件費の増加	
		(35.5)	(33.9)	(32.3)	
	卸 売 業	原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少 設備店舗の狭小老朽化 人件費の増加	人手不足 競争激化 人材育成 法的規制等の問題	
		(42.9)	(21.4)	(7.1)	
	小 売 業	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化	競争激化	
		(40.5)	(27.0)	(24.3)	
	建 設 業	人手不足	原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少	
		(49.5)	(41.1)	(33.6)	
	飲 食 業	原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少	人件費の増加	
		(81.3)	(37.5)	(31.3)	
	サ ー ビ ス 業	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化	人件費以外の経費増加 原材料高及び不足 競争激化	
		(38.9)	(24.1)	(22.2)	
交 通 運 輸 業	人件費の増加 人件費以外の増加	人手不足 法的規則等の問題			
	(100.0)	(50.0)			
そ の 他	設備店舗の狭小老朽化	売上・受注の停滞減少 原材料高及び不足 競争激化	人手不足 人材育成		
	(35.3)	(29.4)	(23.5)		
総 合	売上・受注の停滞減少	原材料高及び不足	人手不足		
	(35.1)	(34.8)	(30.4)		
前 年 同 期	売上・受注の停滞減少	原材料高及び不足	人手不足		
	(42.2)	(33.3)	(26.5)		

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

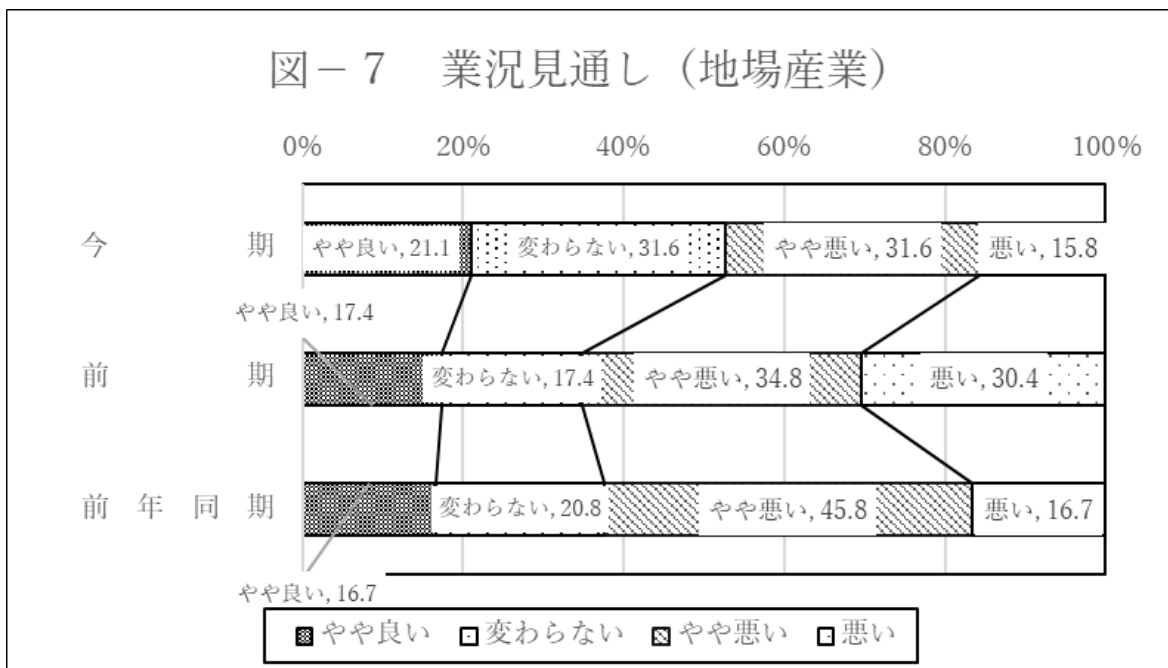
a) 現状の業況について (図-6 参照)

「良い」「やや良い」は 21.1% (前期 13.1% : 前年同期 20.8%)、「やや悪い」「悪い」は 21.1% (前期 73.9% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は△21.1 (前期△60.9 : 前年同期△29.2) と前期より 39.8 ポイント、前年同期では 8.1 ポイント改善している。



b) 今後の業況見通しについて (図-7 参照)

「良い」「やや良い」は 21.1% (前期 17.4% : 前年同期 16.7%)、「やや悪い」「悪い」は 47.4% (前期 65.2% : 前年同期 62.5%) となった。DI 値は△26.3 (前期△26.3 : 前年同期△21.5) と前期ではほぼ横ばい、前年同期より 4.8 ポイント悪化している。



●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」21.1%（前期 13.1%：前年同期 25.0%）、「やや減少」「減少」は 42.1%（前期 73.9%：前年同期 45.8%）となった。DI 値は△21.1（前期△60.9：前年同期△20.8）と前期より 39.8 ポイント改善、前年同期より 0.3 ポイントとほぼ横ばいとなった。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 15.8%（前期 17.4%：前年同期 16.7%）、「やや減少」「減少」は 47.4%（前期 47.8%：前年同期 50.0%）となった。DI 値は△31.6（前期△30.4：前年同期△33.3）と前期より 1.2 ポイント悪化、前年同期より 1.7 ポイント改善している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 26.3%（前期 8.7%：前年同期 12.5%）、「やや減少」「減少」は 42.1%（前期 78.3%：前年同期 50.0%）となった。DI 値は△15.8（前期△69.6：前年同期△37.5）と前期より 53.8 ポイント、前年同期より 21.7 ポイントいずれも改善している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL：059-382-3222

FAX：059-383-7667